

# 3.2 海域活断層に想定される地震に伴う津波

## ・詳細パラメータスタディ

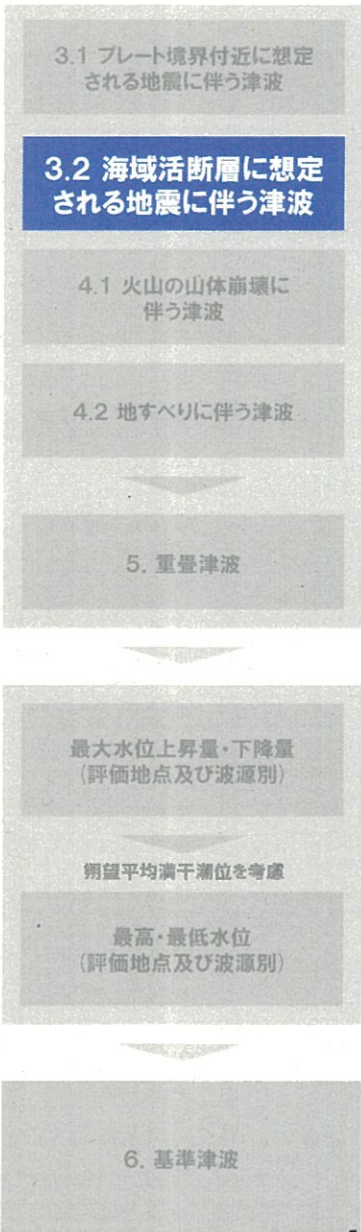
検討ケース		一次評価地点					
		水位上昇側				水位下降側	
傾斜角*1 (度)	すべり 角*1 (度)	3号炉 敷地前面	3号炉 海水取水口	3号炉 T/B復水器 取水先端	3号炉 放水口	3号炉 海水取水口	
水位 上昇側	北75	165	+5.94m [-0.33m]	+3.52m [-0.34m]	+2.26m [-0.33m]	+2.73m [-0.33m]	
		170	+4.06m [-0.22m]	+2.07m [-0.23m]	+1.48m [-0.22m]	+1.66m [-0.22m]	
		175	+1.98m [-0.11m]	+0.94m [-0.11m]	+0.70m [-0.11m]	+0.77m [-0.11m]	
	※2 北80	165	+5.90m [-0.36m]	+3.59m [-0.37m]	+2.25m [-0.36m]	+2.76m [-0.37m]	
		170	+4.14m [-0.24m]	+2.12m [-0.25m]	+1.48m [-0.24m]	+1.68m [-0.24m]	
		175	+2.00m [-0.12m]	+0.94m [-0.12m]	+0.70m [-0.12m]	+0.77m [-0.12m]	
	北85	165	+5.84m [-0.39m]	+3.60m [-0.40m]	+2.20m [-0.39m]	+2.75m [-0.40m]	
		170	+4.14m [-0.26m]	+2.14m [-0.26m]	+1.45m [-0.26m]	+1.68m [-0.26m]	
		175	+2.01m [-0.13m]	+0.93m [-0.13m]	+0.68m [-0.13m]	+0.76m [-0.13m]	
	※3 90	165	+5.83m [-0.42m]	+3.55m [-0.42m]	+2.12m [-0.42m]	+2.69m [-0.42m]	
		170	+4.11m [-0.28m]	+2.11m [-0.28m]	+1.41m [-0.28m]	+1.64m [-0.28m]	
		175	+1.99m [-0.13m]	+0.91m [-0.13m]	+0.66m [-0.13m]	+0.74m [-0.13m]	
南85	165	+5.60m [-0.44m]	+3.45m [-0.44m]	+2.01m [-0.44m]	+2.59m [-0.44m]		
	170	+4.00m [-0.29m]	+2.05m [-0.29m]	+1.34m [-0.29m]	+1.57m [-0.29m]		
	175	+1.96m [-0.14m]	+0.88m [-0.14m]	+0.62m [-0.14m]	+0.71m [-0.14m]		
水位 下降側	北75	185				-0.95m [+0.11m]	
		190				-1.75m [+0.23m]	
		195				-2.39m [+0.34m]	
	※4 北80	185				-0.94m [+0.13m]	
		190				-1.72m [+0.25m]	
		195				-2.34m [+0.38m]	
	北85	185				-0.92m [+0.14m]	
		190				-1.68m [+0.28m]	
		195				-2.27m [+0.41m]	

※2 概略パラメータスタディ結果のうち上昇側の着目地点  
「3号炉T/B復水器取水先端」「3号炉放水口」における最も厳しいケース

※3 概略パラメータスタディ結果のうち上昇側の着目地点  
「3号炉敷地前面」「3号炉海水取水口」における最も厳しいケース

※4 概略パラメータスタディ結果のうち下降側の着目地点  
「3号炉海水取水口」における最も厳しいケース

下線:各一次評価地点における地盤変動量を考慮した最も厳しいケース [ ]内の数値は伊方発電所における地盤変動量(+が隆起、-が沈降)  
※ 敷地前面海域の断層群(中央構造線断層帯:海域部)のうち敷地前面海域の断層群及び伊予セグメントのパラメータであり、別府-万年山断層帯は基準断層モデルと同じ。

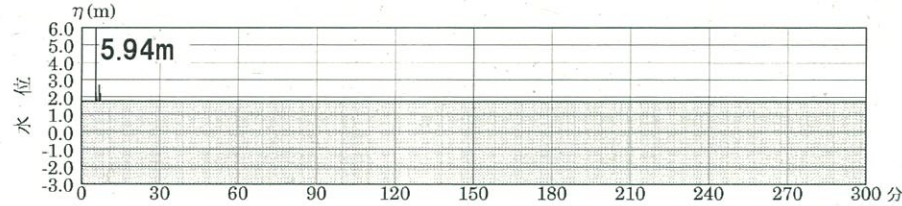




# 3.2 海域活断層に想定される地震に伴う津波

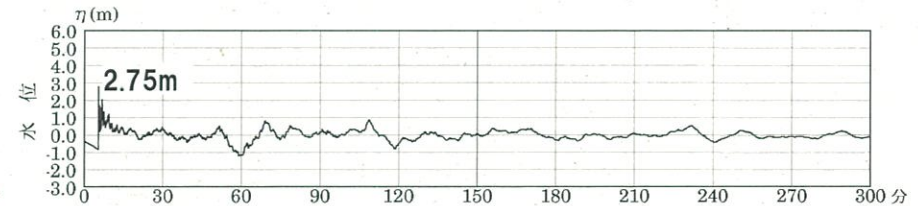
【3号炉敷地前面(水位上昇側)】

(敷地前面海域の断層群, 伊予セグメント) 傾斜角: 北75度, すべり角: 165度 (別府-万年山断層帯) 基準断層モデルと同じ



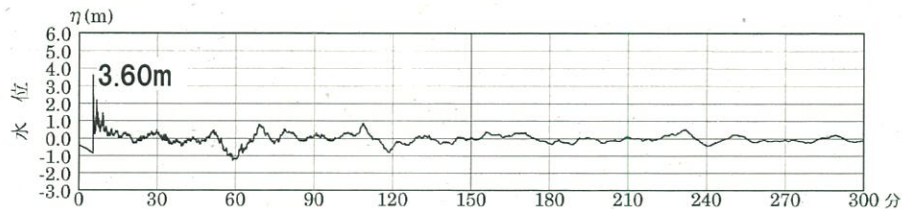
【3号炉放水口(水位上昇側)】

(敷地前面海域の断層群, 伊予セグメント) 傾斜角: 北85度, すべり角: 165度 (別府-万年山断層帯) 基準断層モデルと同じ



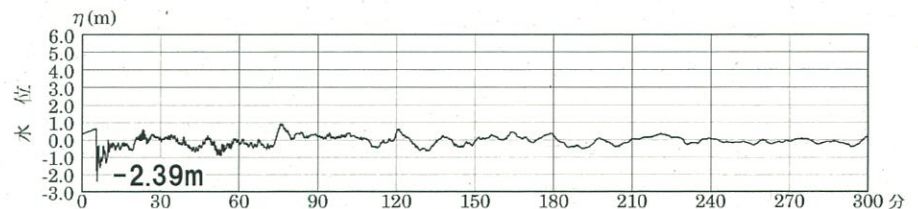
【3号炉海水取水口(水位上昇側)】

(敷地前面海域の断層群, 伊予セグメント) 傾斜角: 北85度, すべり角: 165度 (別府-万年山断層帯) 基準断層モデルと同じ



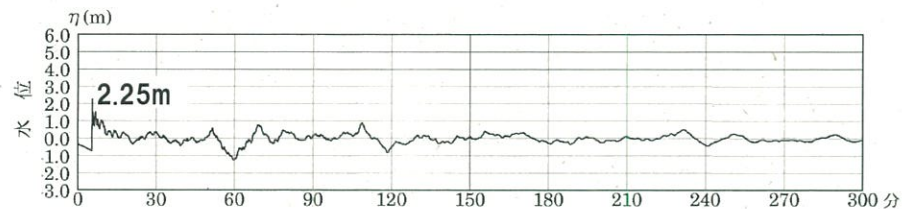
【3号炉海水取水口(水位下降側)】

(敷地前面海域の断層群, 伊予セグメント) 傾斜角: 北75度, すべり角: 195度 (別府-万年山断層帯) 基準断層モデルと同じ



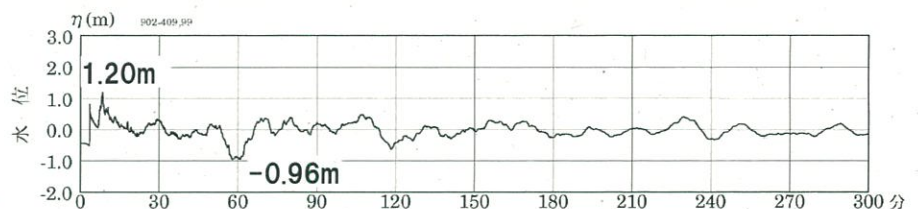
【3号炉T/B復水器取水先端(水位上昇側)】

(敷地前面海域の断層群, 伊予セグメント) 傾斜角: 北80度, すべり角: 165度 (別府-万年山断層帯) 基準断層モデルと同じ

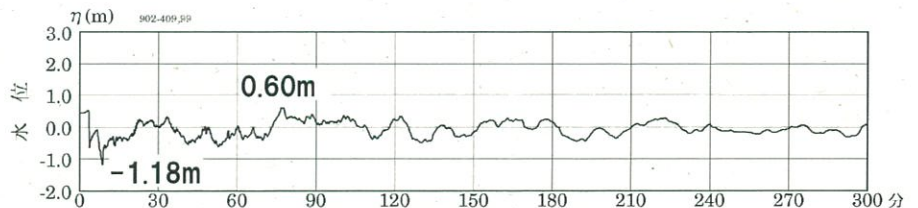


【基準津波定義地点】

(敷地前面海域の断層群, 伊予セグメント) 傾斜角: 北75度, すべり角: 165度 (別府-万年山断層帯) 基準断層モデルと同じ



(敷地前面海域の断層群, 伊予セグメント) 傾斜角: 北75度, すべり角: 195度 (別府-万年山断層帯) 基準断層モデルと同じ

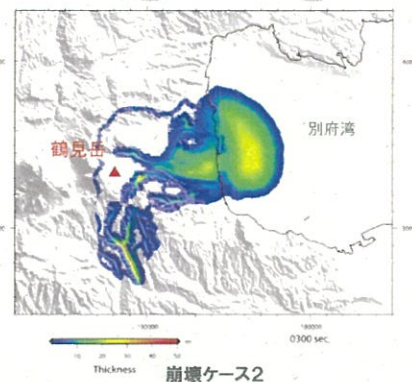
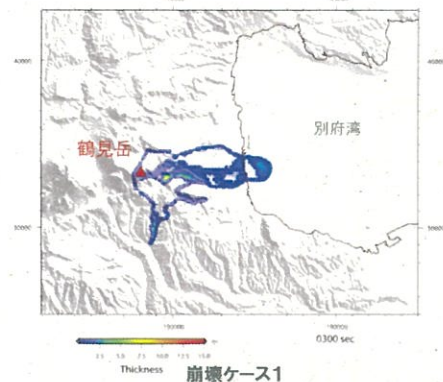
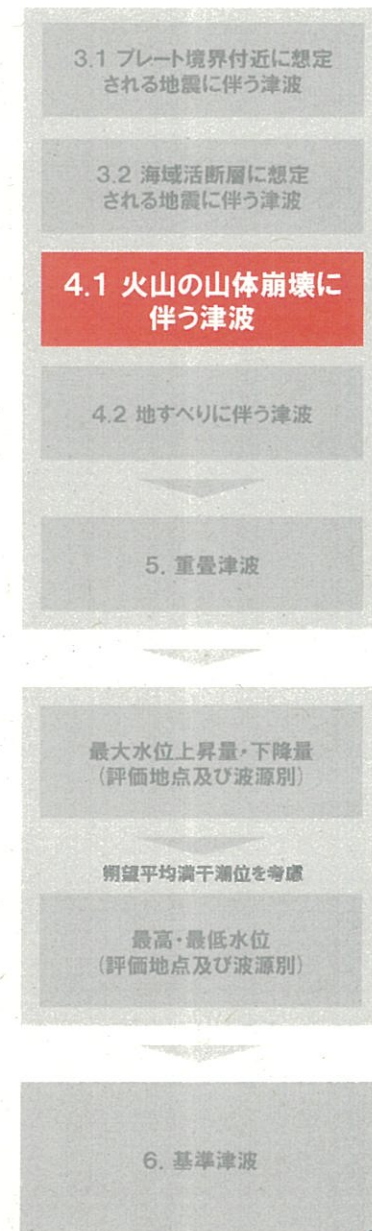


※ 基準津波定義地点は, 3号炉敷地前面(水位上昇側)及び3号炉海水取水口(水位下降側)について最も厳しい結果を与えるケースの時刻歴水位のみを記載

# 4.1 火山の山体崩壊に伴う津波

検討ケース		一次評価地点				
		水位上昇側				水位下降側
		3号炉 敷地前面	3号炉 海水取水口	3号炉 T/B復水 器取水先端	3号炉 放水口	3号炉 海水取水口
崩壊ケース1	二層流モデル	+0.04m [±0.00m]	+0.03m [±0.00m]	+0.03m [±0.00m]	+0.03m [±0.00m]	-0.04m [±0.00m]
	Kinematic Landslide モデル	+0.02m [±0.00m]	+0.01m [±0.00m]	+0.01m [±0.00m]	+0.01m [±0.00m]	-0.01m [±0.00m]
崩壊ケース2	二層流モデル	<b>+0.94m</b> [±0.00m]	<b>+0.91m</b> [±0.00m]	<b>+0.90m</b> [±0.00m]	<b>+0.90m</b> [±0.00m]	<b>-0.71m</b> [±0.00m]
	Kinematic Landslide モデル	+0.62m [±0.00m]	+0.61m [±0.00m]	+0.61m [±0.00m]	+0.61m [±0.00m]	-0.42m [±0.00m]

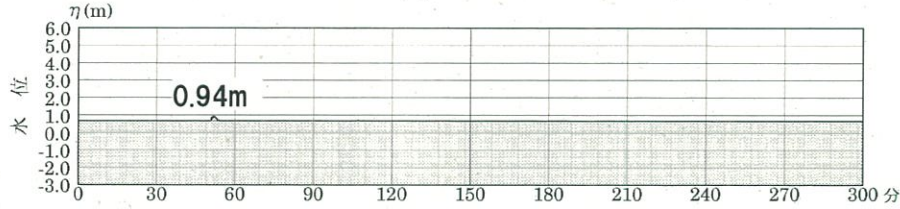
下線: 各一次評価地点における地盤変動量を考慮した最も厳しいケース  
[ ]内の数値は伊方発電所における地盤変動量(+が隆起, -が沈降)



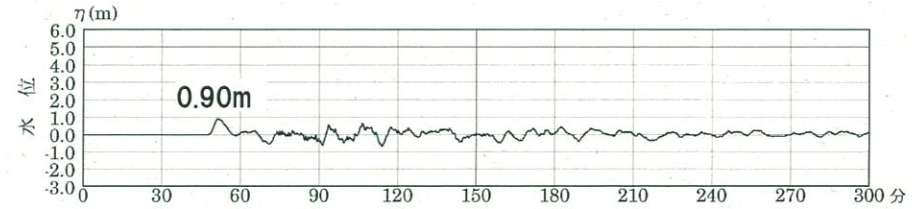


# 4.1 火山の山体崩壊に伴う津波

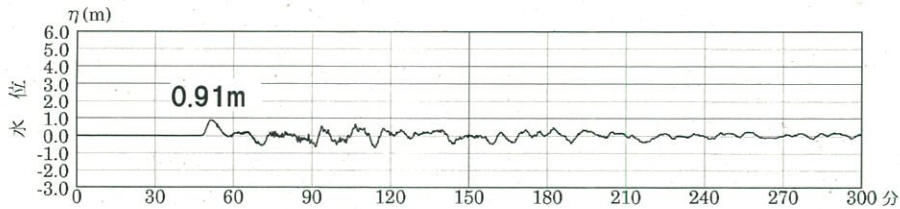
【3号炉敷地前面(水位上昇側)】  
前環ケース2, 二層流モデル



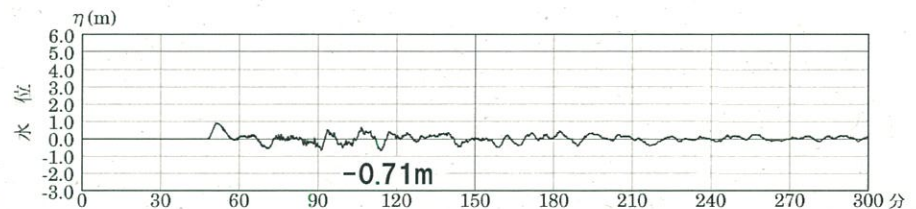
【3号炉放水口(水位上昇側)】  
前環ケース2, 二層流モデル



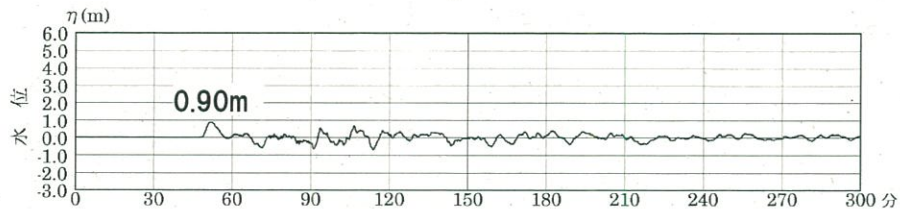
【3号炉海水取水口(水位上昇側)】  
前環ケース2, 二層流モデル



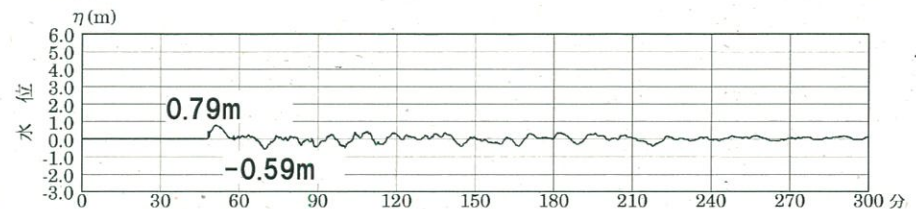
【3号炉海水取水口(水位下降側)】  
前環ケース2, 二層流モデル



【3号炉T/B復水器取水先端(水位上昇側)】  
前環ケース2, 二層流モデル



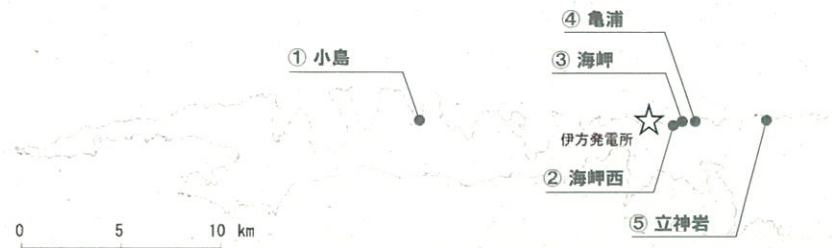
【基準津波定義地点】  
前環ケース2, 二層流モデル



# 4.2 地すべりに伴う津波

検討ケース		一次評価地点				
		水位上昇側			水位下降側	
		3号炉 敷地前面	3号炉 海水取水口	3号炉 T/B復水 器取水先端	3号炉 放水口	3号炉 海水取水口
① 小島	二層流モデル	+0.34m [±0.00m]	+0.28m [±0.00m]	+0.17m [±0.00m]	+0.16m [±0.00m]	-0.26m [±0.00m]
② 海岬西	二層流モデル	<u>+4.73m</u> [±0.00m]	+1.39m [±0.00m]	+1.09m [±0.00m]	+1.37m [±0.00m]	-1.15m [±0.00m]
	Kinematic Landslide モデル	+0.64m [±0.00m]	+0.39m [±0.00m]	+0.29m [±0.00m]	+0.30m [±0.00m]	-0.24m [±0.00m]
③ 海岬	二層流モデル	+4.21m [±0.00m]	<u>+2.37m</u> [±0.00m]	+1.24m [±0.00m]	<u>+2.28m</u> [±0.00m]	<u>-1.67m</u> [±0.00m]
④ 亀浦	二層流モデル	+4.20m [±0.00m]	+1.92m [±0.00m]	<u>+1.64m</u> [±0.00m]	+1.59m [±0.00m]	-1.10m [±0.00m]
⑤ 立神岩	二層流モデル	+0.54m [±0.00m]	+0.43m [±0.00m]	+0.39m [±0.00m]	+0.41m [±0.00m]	-0.29m [±0.00m]

下線: 各一次評価地点における地盤変動量を考慮した最も厳しいケース  
[ ]内の数値は伊方発電所における地盤変動量(+が隆起, -が沈降)



3.1 プレート境界付近に想定される地震に伴う津波

3.2 海域活断層に想定される地震に伴う津波

4.1 火山の山体崩壊に伴う津波

**4.2 地すべりに伴う津波**

5. 重量津波

最大水位上昇量・下降量  
(評価地点及び波源別)

期望平均満干潮位を考慮

最高・最低水位  
(評価地点及び波源別)

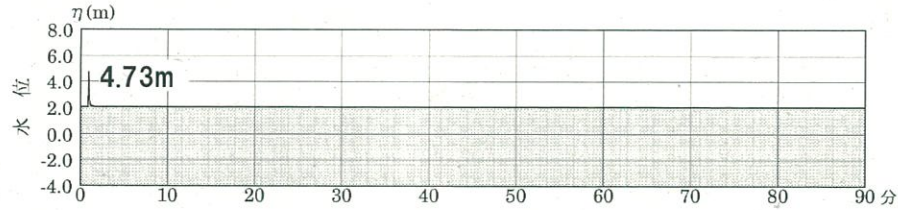
6. 基準津波



# 4.2 地すべりに伴う津波

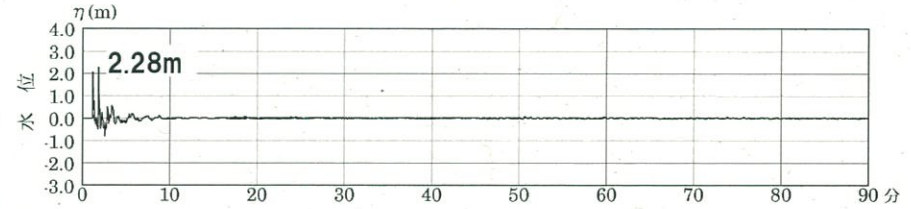
【3号炉敷地前面(水位上昇側)】

②海畔西, 二層流モデル



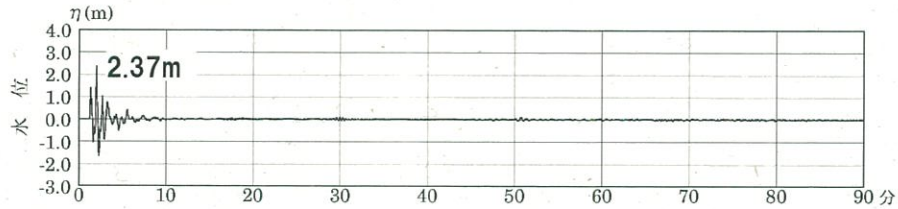
【3号炉放水口(水位上昇側)】

③海畔, 二層流モデル



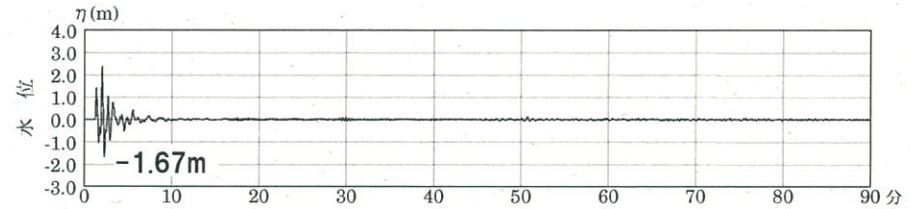
【3号炉海水取水口(水位上昇側)】

③海畔, 二層流モデル



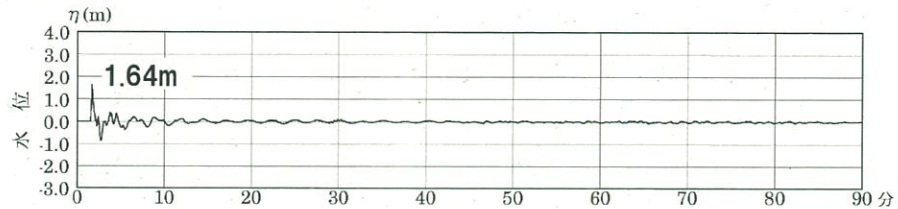
【3号炉海水取水口(水位下降側)】

③海畔, 二層流モデル



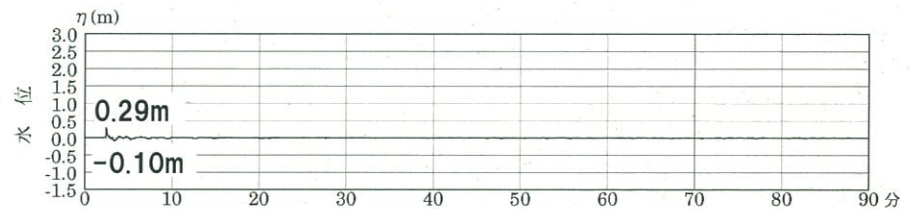
【3号炉T/B復水器取水先端(水位上昇側)】

④亀浦, 二層流モデル

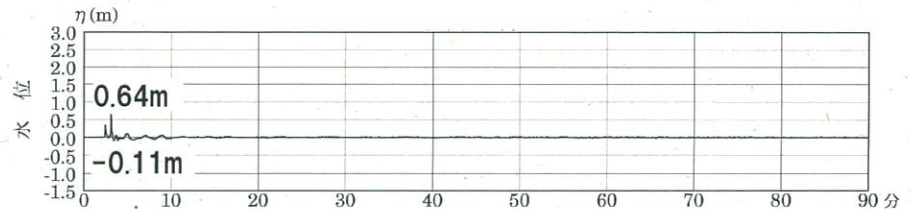


【基準津波定義地点】

②海畔西, 二層流モデル



③海畔, 二層流モデル



※ 基準津波定義地点は、3号炉敷地前面(水位上昇側)及び3号炉海水取水口(水位下降側)について最も厳しい結果を与えるケースの時刻歴水位のみを記載

# 5. 重畳津波

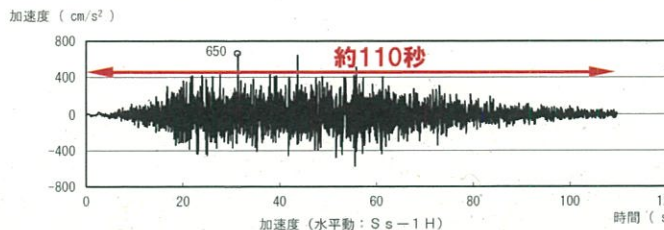
平成27年6月3日  
まとめ資料再掲

検討ケース		一次評価地点									
		水位上昇側				水位下降側					
		一次評価地点	海域の活断層に想定される地震に伴う津波 (敷地前面海域の断層群(中央構造線断層帯:海域部)に想定される地震に伴う津波)		地すべり津波 (伊予灘沿岸部の地すべりに伴う津波)		時間差(秒)	3号炉敷地前面	3号炉海水取水口	3号炉T/B復水器取水先端	3号炉放水口
	傾斜角*(度)	すべり角*(度)	地点	評価手法							
水位 上昇側	重畳ケースA	3号炉敷地前面	北75	165	④(亀浦)	二層流モデル	97	+5.79m [-0.33m]	+3.42m [-0.34m]	+2.47m [-0.33m]	+2.87m [-0.33m]
	重畳ケースB	3号炉海水取水口	北85	165	④(亀浦)		79	+5.79m [-0.39m]	+3.84m [-0.40m]	+2.18m [-0.39m]	+2.90m [-0.40m]
	重畳ケースC	3号炉T/B復水器取水先端	北80	165	⑤(立神岩)		15	+6.50m [-0.36m]	+3.81m [-0.37m]	+2.59m [-0.36m]	+3.07m [-0.37m]
	重畳ケースD	3号炉放水口	北85	165	⑤(立神岩)		12	+6.44m [-0.39m]	+3.83m [-0.40m]	+2.54m [-0.39m]	+3.07m [-0.40m]
水位 下降側	重畳ケースE	3号炉海水取水口	北75	195	③(海岬)						-2.91m [+0.34m]

下線:各一次評価地点における地盤変動量を考慮した最も厳しいケース  
[ ]内の数値は伊方発電所における地盤変動量(+が隆起,-が沈降)

- 重畳ケースA 傾斜角\*:北75度,すべり角\*:165度,地すべり地点:④(亀浦),評価手法:二層流,時間差:97秒
- 重畳ケースB 傾斜角\*:北85度,すべり角\*:165度,地すべり地点:④(亀浦),評価手法:二層流,時間差:79秒
- 重畳ケースC 傾斜角\*:北80度,すべり角\*:165度,地すべり地点:⑤(立神岩),評価手法:二層流,時間差:15秒
- 重畳ケースD 傾斜角\*:北85度,すべり角\*:165度,地すべり地点:⑤(立神岩),評価手法:二層流,時間差:12秒
- 重畳ケースE 傾斜角\*:北75度,すべり角\*:195度,地すべり地点:③(海岬),評価手法:二層流,時間差:71秒

\* 敷地前面海域の断層群(中央構造線断層帯:海域部)のうち敷地前面海域の断層群及び伊予セグメントのパラメータであり,別府-万年山断層帯は基準断層モデルと同じ。



3.1 プレート境界付近に想定される地震に伴う津波

3.2 海域活断層に想定される地震に伴う津波

4.1 火山の山体崩壊に伴う津波

4.2 地すべりに伴う津波

**5. 重畳津波**

最大水位上昇量・下降量  
(評価地点及び波源別)

期望平均満干潮位を考慮

最高・最低水位  
(評価地点及び波源別)

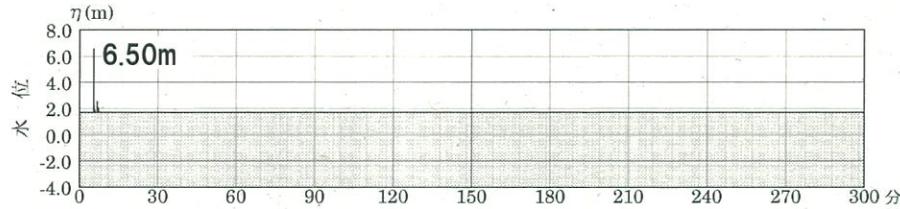
6. 基準津波



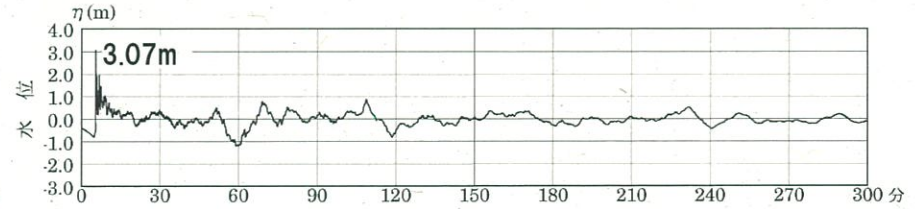
# 5. 重畳津波

平成27年6月3日  
まとめ資料再掲

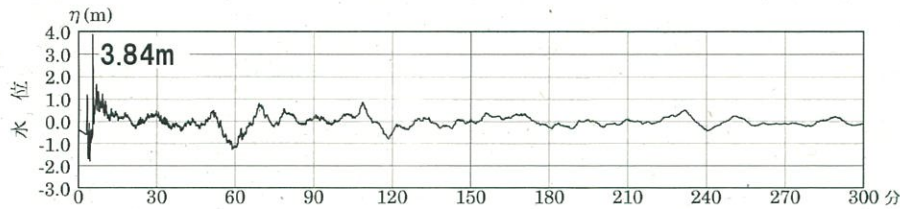
【3号炉敷地前面(水位上昇側)】  
重畳ケースC



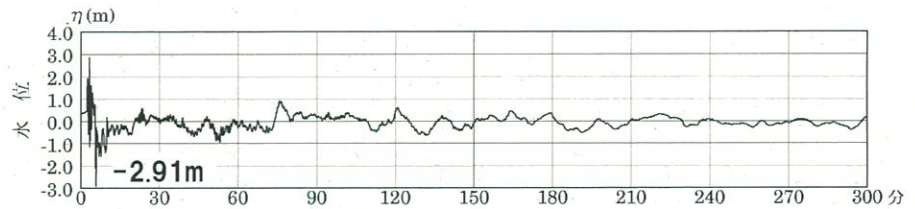
【3号炉放水口(水位上昇側)】  
重畳ケースD



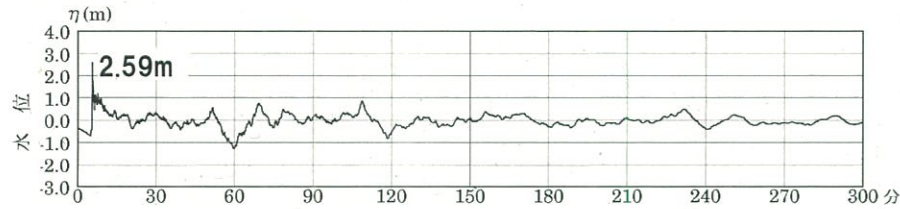
【3号炉海水取水口(水位上昇側)】  
重畳ケースB



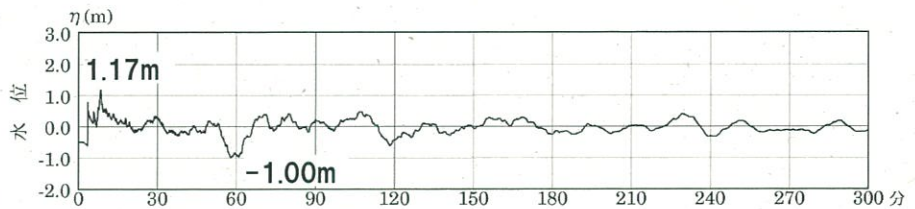
【3号炉海水取水口(水位下降側)】  
重畳ケースE



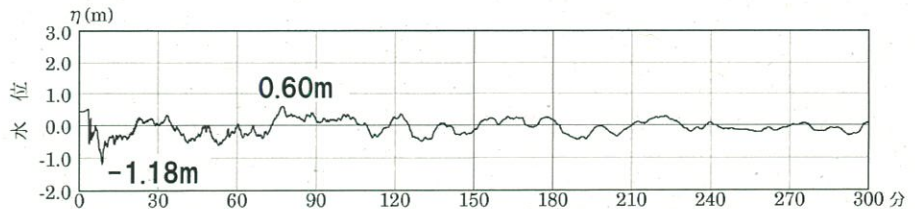
【3号炉T/B復水器取水先端(水位上昇側)】  
重畳ケースC



【基準津波定義地点】  
重畳ケースC



重畳ケースE



※ 基準津波定義地点は、3号炉敷地前面(水位上昇側)及び3号炉海水取水口(水位下降側)について最も厳しい結果を与えるケースの時刻歴水位のみを記載



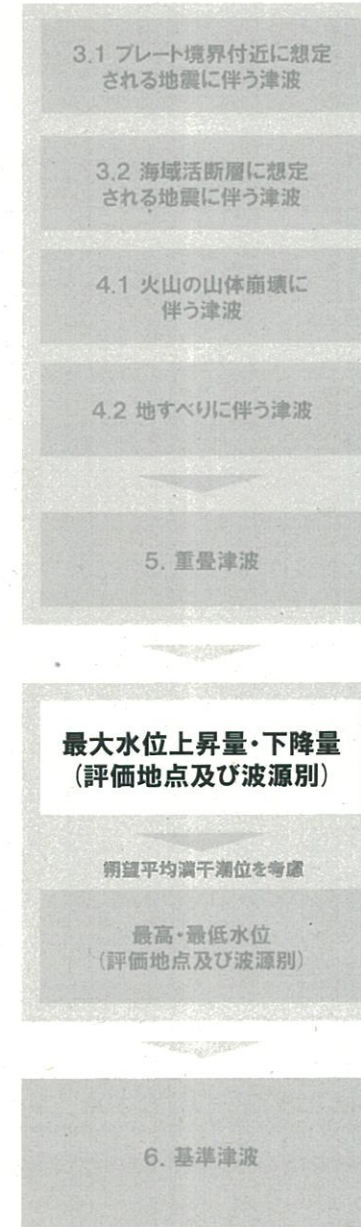
# 最大水位上昇量・下降量

波源及び検討ケース		一次評価地点				
		水位上昇側				水位下降側
		3号炉 敷地前面	3号炉 海水取水口	3号炉 T/B復水器 取水先端	3号炉 放水口	3号炉 海水取水口
<b>1 プレート境界に想定される地震に伴う津波 (南海トラフの巨大地震に伴う津波)</b>						
南海トラフの巨大地震に伴う津波		+0.83m [-0.84m]	+0.76m [-0.84m]	+0.76m [-0.84m]	+0.77m [-0.84m]	-0.86m [-0.84m]
<b>2 海域の活断層に想定される地震に伴う津波 (敷地前面海域の断層群 (中央構造線断層帯: 海域部) に想定される地震に伴う津波)</b>						
傾斜角*: 北75度	すべり角*: 165度	+5.94m [-0.33m]				
傾斜角*: 北85度	すべり角*: 165度		+3.60m [-0.40m]		+2.75m [-0.40m]	
傾斜角*: 北80度	すべり角*: 165度			+2.25m [-0.36m]		
傾斜角*: 北75度	すべり角*: 195度					-2.39m [+0.34m]
<b>4.1 火山の山体崩壊に伴う津波 (鶴見岳の山体崩壊に伴う津波)</b>						
崩壊ケース2	二層流モデル	+0.94m [±0.00m]	+0.91m [±0.00m]	+0.90m [±0.00m]	+0.90m [±0.00m]	-0.71m [±0.00m]
<b>4 地すべり津波 (伊予灘沿岸部の地すべりに伴う津波)</b>						
② 海岬西	二層流モデル	+4.73m [±0.00m]				
③ 海岬	二層流モデル		+2.37m [±0.00m]		+2.28m [±0.00m]	-1.67m [±0.00m]
④ 亀浦	二層流モデル			+1.64m [±0.00m]		
<b>5. 重畳津波 (「敷地前面海域の断層群 (中央構造線断層帯: 海域部) に想定される地震に伴う津波」と「伊予灘沿岸部の地すべりに伴う津波」を重ねさせた津波)</b>						
重畳ケースC		+6.50m [-0.36m]		+2.59m [-0.36m]		
重畳ケースB			+3.84m [-0.40m]			
重畳ケースD					+3.07m [-0.40m]	
重畳ケースE						-2.91m [+0.34m]

評価地点及び波源別の最大水位変動量を示しており、これ以外は空欄としている。[ ]内の数値は伊方発電所における地盤変動量(+が隆起、-が沈降)

重畳ケースB 傾斜角\*: 北85度, すべり角\*: 165度, 地すべり地点: ④(亀浦), 評価手法: 二層流, 時間差: 79秒  
 重畳ケースC 傾斜角\*: 北80度, すべり角\*: 165度, 地すべり地点: ⑤(立神岩), 評価手法: 二層流, 時間差: 15秒  
 重畳ケースD 傾斜角\*: 北85度, すべり角\*: 165度, 地すべり地点: ⑤(立神岩), 評価手法: 二層流, 時間差: 12秒  
 重畳ケースE 傾斜角\*: 北75度, すべり角\*: 195度, 地すべり地点: ③(海岬), 評価手法: 二層流, 時間差: 71秒

※ 敷地前面海域の断層群(中央構造線断層帯: 海域部)のうち敷地前面海域の断層群及び伊予セグメントのパラメータであり、別府-万年山断層帯は基準断層モデルと同じ。





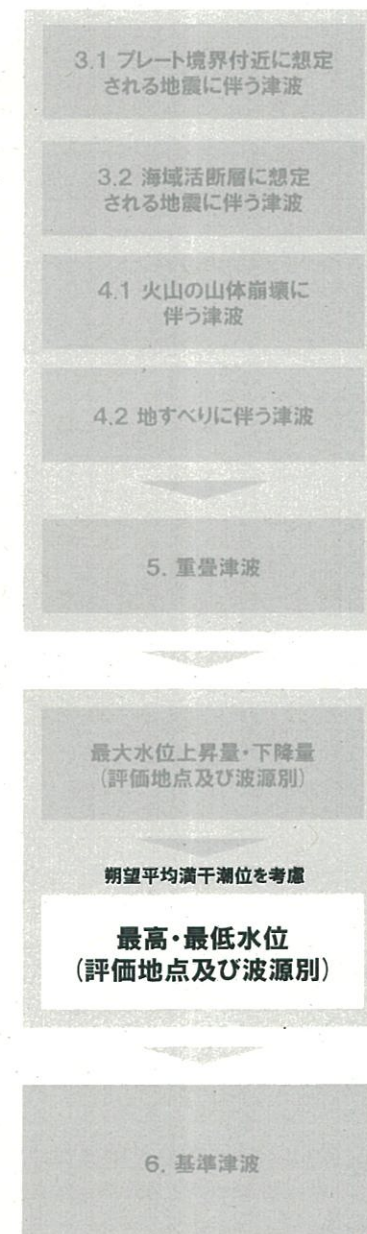
# 最高・最低水位 (※ 前頁の値に朔望平均満干潮位を考慮)

波源及び検討ケース		一次評価地点				
		水位上昇側				水位下降側
		3号炉 敷地前面	3号炉 海水取水口	3号炉 T/B復水器 取水先端	3号炉 放水口	3号炉 海水取水口
<b>1 プレート境界に想定される地震に伴う津波 (南海トラフの巨大地震に伴う津波)</b>						
南海トラフの巨大地震に伴う津波		T.P.+2.45m [-0.84m]	T.P.+2.38m [-0.84m]	T.P.+2.38m [-0.84m]	T.P.+2.39m [-0.84m]	T.P.-2.55m [-0.84m]
<b>2 海域の活断層に想定される地震に伴う津波 (敷地前面海域の断層群 (中央構造線断層帯: 海域部) に想定される地震に伴う津波)</b>						
傾斜角*: 北75度	すべり角*: 165度	T.P.+7.56m [-0.33m]				
傾斜角*: 北85度	すべり角*: 165度		T.P.+5.22m [-0.40m]		T.P.+4.37m [-0.40m]	
傾斜角*: 北80度	すべり角*: 165度			T.P.+3.87m [-0.36m]		
傾斜角*: 北75度	すべり角*: 195度					T.P.-4.08m [+0.34m]
<b>4.1 火山の山体崩壊に伴う津波 (鶴見岳の山体崩壊に伴う津波)</b>						
崩壊ケース2	二層流モデル	T.P.+2.56m [±0m]	T.P.+2.53m [±0m]	T.P.+2.52m [±0m]	T.P.+2.52m [±0m]	T.P.-2.40m [±0m]
<b>4 地すべり津波 (伊予灘沿岸部の地すべりに伴う津波)</b>						
② 海岬西	二層流モデル	T.P.+6.35m [±0m]				
③ 海岬	二層流モデル		T.P.+3.99m [±0m]		T.P.+3.90m [±0m]	T.P.-3.36m [±0m]
④ 亀浦	二層流モデル			T.P.+3.26m [±0m]		
<b>5. 重畳津波 (「敷地前面海域の断層群 (中央構造線断層帯: 海域部) に想定される地震に伴う津波」と「伊予灘沿岸部の地すべりに伴う津波」を重畳させた津波)</b>						
重畳ケースC		T.P.+8.12m [-0.36m]		T.P.+4.21m [-0.36m]		
重畳ケースB			T.P.+5.46m [-0.40m]			
重畳ケースD					T.P.+4.69m [-0.40m]	
重畳ケースE						T.P.-4.60m [+0.34m]

評価地点及び波源別の最高水位・最低水位を示しており、これ以外は空欄としている。水位上昇側は朔望平均満潮位(T.P.+1.62m)を考慮し、水位下降側は朔望平均干潮位(T.P.-1.69m)を考慮した値。[ ]内の数値は伊方発電所における地盤変動量(+が隆起、-が沈降)。下線: 各一次評価地点における地盤変動量を考慮した最も厳しいケース。

重畳ケースB 傾斜角\*: 北85度, すべり角\*: 165度, 地すべり地点: ④(亀浦), 評価手法: 二層流, 時間差: 79秒  
 重畳ケースC 傾斜角\*: 北80度, すべり角\*: 165度, 地すべり地点: ⑤(立神岩), 評価手法: 二層流, 時間差: 15秒  
 重畳ケースD 傾斜角\*: 北85度, すべり角\*: 165度, 地すべり地点: ⑤(立神岩), 評価手法: 二層流, 時間差: 12秒  
 重畳ケースE 傾斜角\*: 北75度, すべり角\*: 195度, 地すべり地点: ③(海岬), 評価手法: 二層流, 時間差: 71秒

※ 敷地前面海域の断層群(中央構造線断層帯: 海域部)のうち敷地前面海域の断層群及び伊予セグメントのパラメータであり、別府一万年山断層帯は基準断層モデルと同じ。





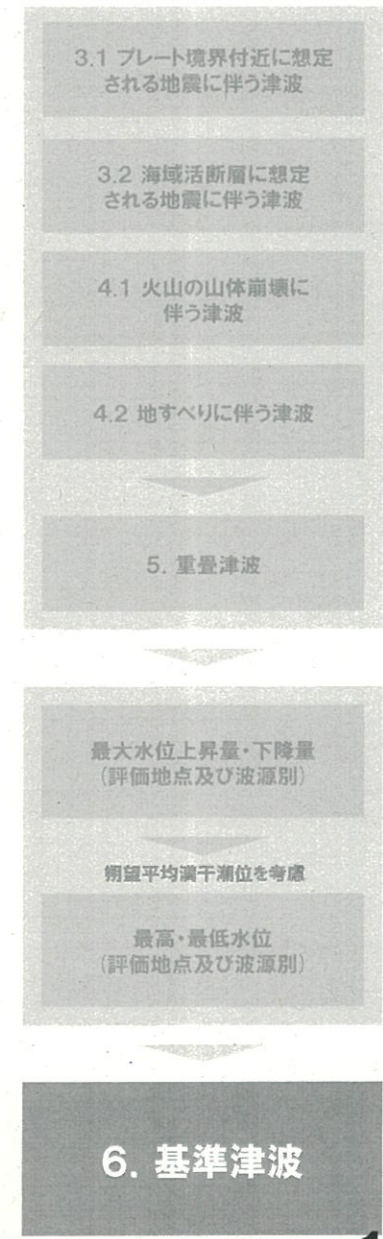
# 6. 基準津波

名称	波源及び検討ケース	一次評価地点					二次評価地点			
		水位上昇側				水位下降側	水位上昇側			水位下降側
		3号炉敷地前面	3号炉海水取水口	3号炉T/B復水器取水先端	3号炉放水口	3号炉海水取水口	3号炉海水ビットポンプ室	3号炉取水ビット	3号炉放水ビット	3号炉海水ビットポンプ室
<b>重畳津波</b> (「敷地前面海域の断層群(中央構造線断層帯:海域部)に想定される地震に伴う津波」と「伊予灘沿岸部の地すべりに伴う津波」を重畳させた津波)										
基準津波1	重畳ケースC	T.P.+8.12m [-0.36m]		T.P.+4.21m [-0.36m]				T.P.+4.87m [-0.36m]		
基準津波2	重畳ケースB		T.P.+5.46m [-0.40m]							
基準津波3	重畳ケースD				T.P.+4.69m [-0.40m]					
基準津波4	重畳ケースE					T.P.-4.60m [+0.34m]				T.P.-3.26m [+0.34m]
<b>海域の活断層に想定される地震に伴う津波</b> (敷地前面海域の断層群(中央構造線断層帯:海域部)に想定される地震に伴う津波)										
基準津波5	傾斜角※:北85度 すべり角※:165度							T.P.+4.30m [-0.40m]		T.P.+4.07m [-0.39m]

各評価地点の最高水位・最低水位を示しており、これ以外は空欄としている。水位上昇側は期望平均満潮位(T.P.+1.62m)を考慮し、水位下降側は期望平均干潮位(T.P.-1.69m)を考慮した値。[ ]内の数値は伊方発電所における地盤変動量(+が隆起、-が沈降)。

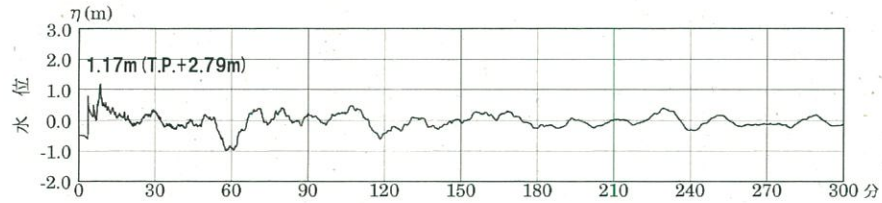
- 重畳ケースB 傾斜角※:北85度, すべり角※:165度, 地すべり地点:④(亀浦), 評価手法:二層流, 時間差:79秒
- 重畳ケースC 傾斜角※:北80度, すべり角※:165度, 地すべり地点:⑤(立神岩), 評価手法:二層流, 時間差:15秒
- 重畳ケースD 傾斜角※:北85度, すべり角※:165度, 地すべり地点:⑤(立神岩), 評価手法:二層流, 時間差:12秒
- 重畳ケースE 傾斜角※:北75度, すべり角※:195度, 地すべり地点:③(海岬), 評価手法:二層流, 時間差:71秒

※ 敷地前面海域の断層群(中央構造線断層帯:海域部)のうち敷地前面海域の断層群及び伊予セグメントのパラメータであり、別府一万年山断層帯は基準断層モデルと同じ。

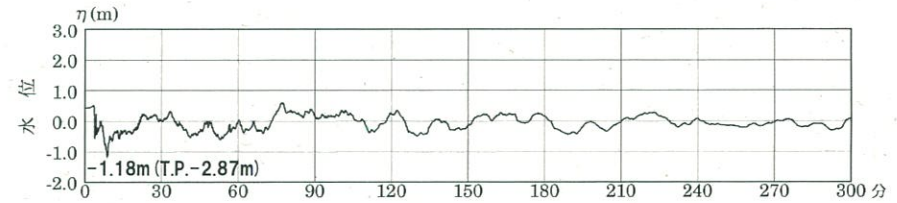


# 6. 基準津波

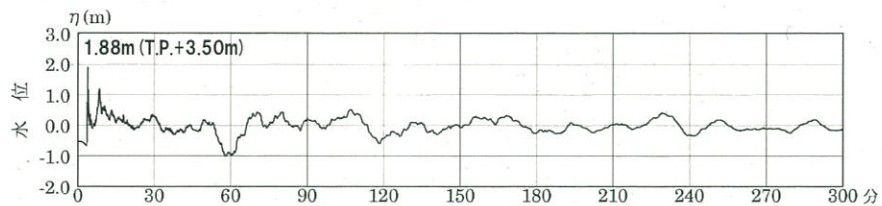
【基準津波1 (水位上昇側)】



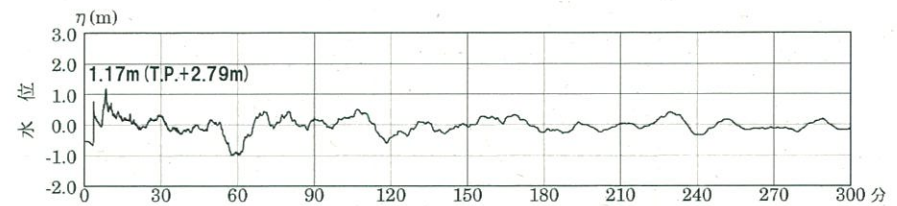
【基準津波4 (水位下降側)】



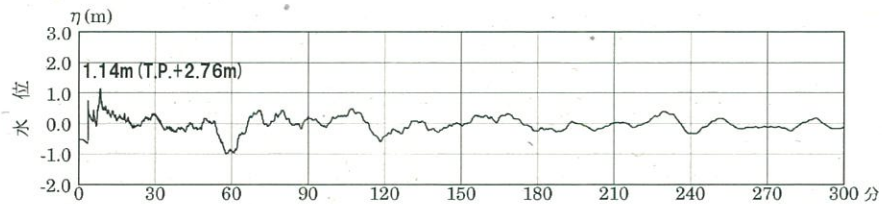
【基準津波2 (水位上昇側)】



【基準津波5 (水位上昇側)】



【基準津波3 (水位上昇側)】





**(参考)**

- 局地的な隆起・沈降を考慮した評価
- 断層の不均質な破壊を考慮した評価

# 3.2 海域活断層に想定される地震に伴う津波(参考)

## ○局地的な隆起・沈降を考慮した評価

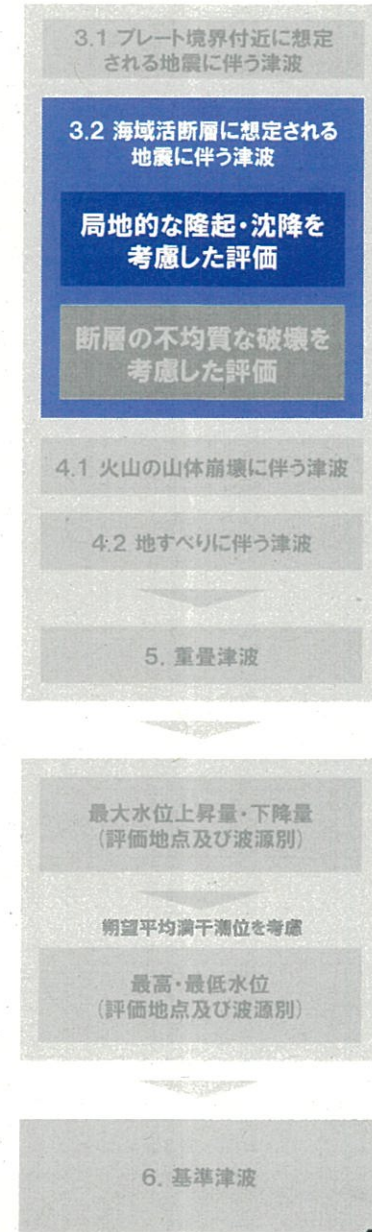
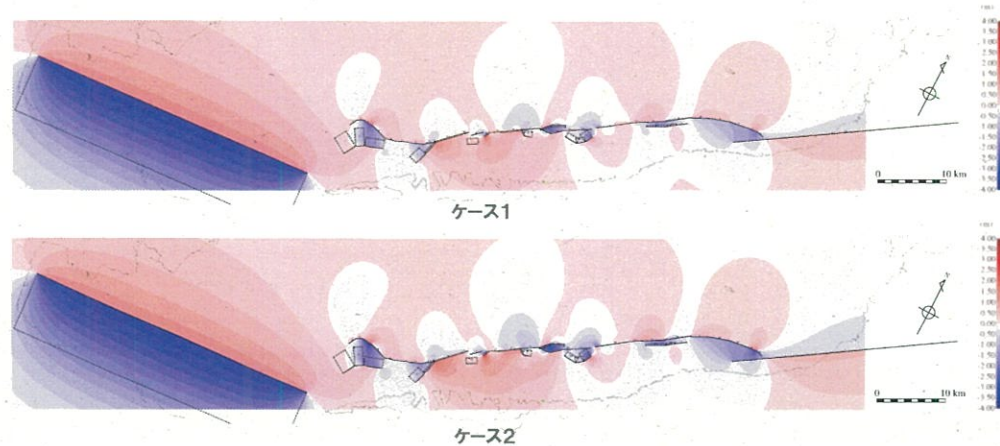
(手法(2)※1: 海域調査結果を基に設定した隆起・沈降量をMansinha and Smylie (1971)の手法に基づき再現する評価手法)

検討ケース	一次評価地点				
	水位上昇側				水位下降側
	3号炉敷地前面	3号炉海水取水口	3号炉T/B復水器取水先端	3号炉放水口	3号炉海水取水口
<b>ケース1</b> (伊予灘では最大約2.4m, 別府湾では最大6.6m沈降するモデル※2)	+4.18m [+0.18m]	+1.31m [+0.21m]	+0.63m [+0.19m]	+0.90m [+0.20m]	-1.15m [+0.21m]
<b>ケース2</b> (伊予灘では最大約3.3m, 別府湾では最大6.6m沈降するモデル※2)	+4.61m [+0.23m]	+1.87m [+0.27m]	+0.81m [+0.25m]	+1.15m [+0.26m]	-1.57m [+0.27m]

下線: 各評価地点における地盤変動量を考慮した最も厳しいケース  
[ ]内の数値は伊方発電所における地盤変動量(+が隆起, -が沈降)

- ※1 平成26年5月16日審査会合資料2-1第II章 または 平成27年2月25日ヒアリングまとめ資料2.3.2.1参照。概要は以下のとおり。
- ・手法(1)では発電所における地盤変動量が算出されない。
  - ・手法(3)では沈降が生じない, または生じたとしても手法(2)より規模が小さいことから手法(2)の評価結果を上回ることはないと評価。
- 手法(1): 海域調査結果を基に設定した隆起・沈降量を初期鉛直変位分布として与える評価手法  
手法(3): 断層を幾つかに分割し, ステップさせた断層モデルをMansinha and Smylie (1971)の手法に基づき再現する評価手法

※2 平成25年10月23日審査会合資料1-2第2章 または 平成26年12月8日ヒアリングまとめ資料別紙II.2参照。



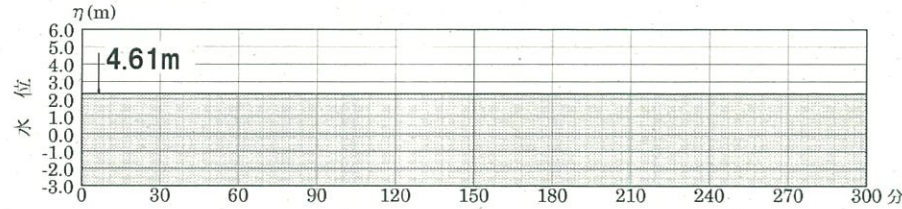


# 3.2 海域活断層に想定される地震に伴う津波(参考)

## ○局地的な隆起・沈降を考慮した評価

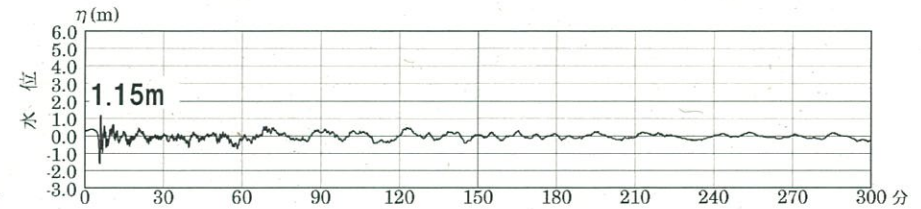
【3号炉敷地前面(水位上昇側)】

ケース2(伊予灘では最大約3.3m, 別府湾では最大6.6m沈降するモデル)



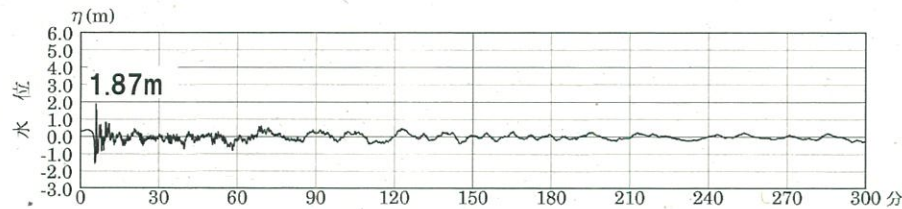
【3号炉放水口(水位上昇側)】

ケース2(伊予灘では最大約3.3m, 別府湾では最大6.6m沈降するモデル)



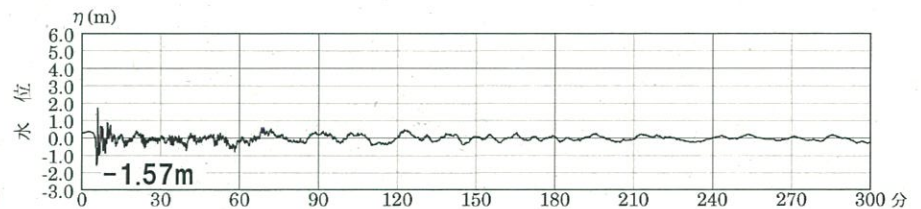
【3号炉海水取水口(水位上昇側)】

ケース2(伊予灘では最大約3.3m, 別府湾では最大6.6m沈降するモデル)



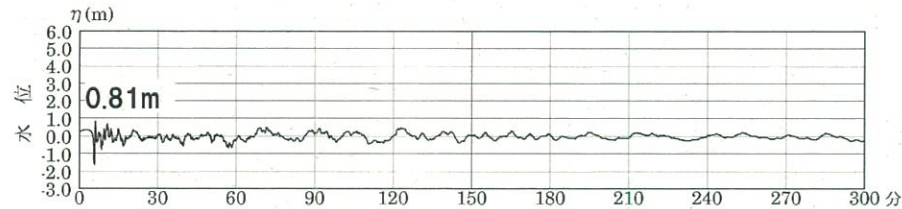
【3号炉海水取水口(水位下降側)】

ケース2(伊予灘では最大約3.3m, 別府湾では最大6.6m沈降するモデル)



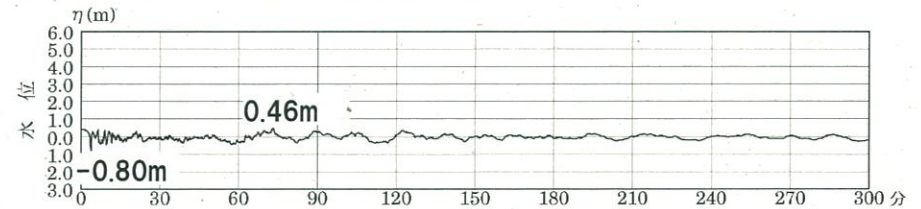
【3号炉T/B復水器取水先端(水位上昇側)】

ケース2(伊予灘では最大約3.3m, 別府湾では最大6.6m沈降するモデル)



【基準津波定義地点】

ケース2(伊予灘では最大約3.3m, 別府湾では最大6.6m沈降するモデル)





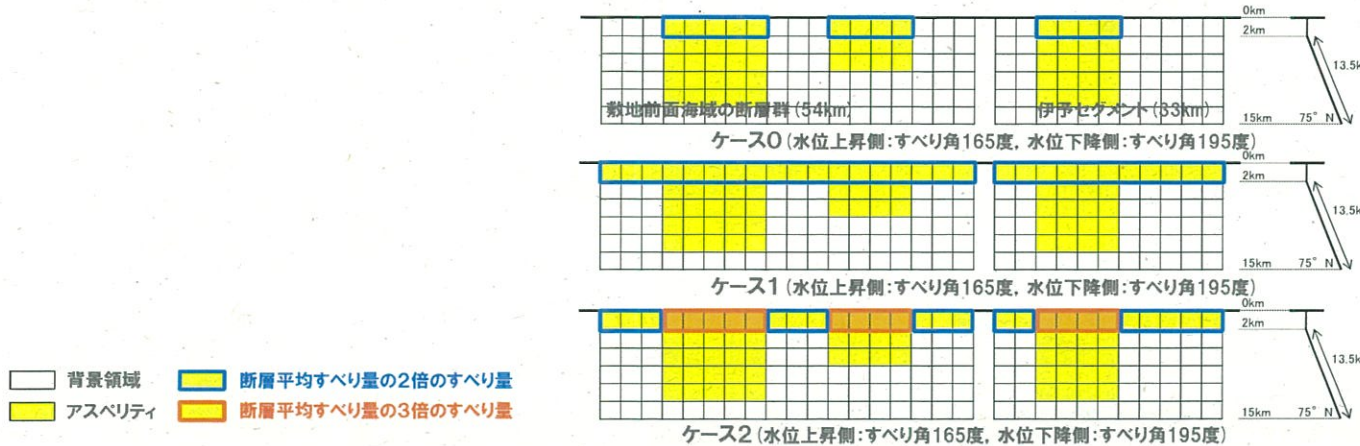
# 3.2 海域活断層に想定される地震に伴う津波(参考)

## ○断層の不均質な破壊を考慮した評価※1

※1 平成26年11月14日審査会合資料2の第1章参照

検討ケース		一次評価地点					
		水位上昇側				水位下降側	
		3号炉敷地前面	3号炉海水取水口	3号炉T/B復水器取水先端	3号炉放水口	3号炉海水取水口	
水位上昇側※2	ケース0	一括破壊	+1.48m [-0.17m]	+1.09m [-0.17m]	+0.83m [-0.17m]	+1.00m [-0.17m]	
		西下端	+1.60m [-0.16m]	+1.13m [-0.17m]	+0.88m [-0.17m]	+1.01m [-0.17m]	
		東下端	+1.53m [-0.17m]	+1.06m [-0.17m]	+0.80m [-0.17m]	+1.02m [-0.17m]	
	ケース1	一括破壊	+4.45m [-0.19m]	+2.32m [-0.19m]	+1.61m [-0.18m]	+1.84m [-0.19m]	
		西下端	+4.20m [-0.19m]	+2.15m [-0.19m]	+1.53m [-0.18m]	+1.69m [-0.19m]	
		東下端	<b>+4.68m [-0.19m]</b>	<b>+2.52m [-0.19m]</b>	<b>+1.67m [-0.18m]</b>	<b>+2.01m [-0.19m]</b>	
	ケース2	一括破壊	+4.31m [-0.18m]	+2.26m [-0.18m]	+1.53m [-0.18m]	+1.77m [-0.18m]	
		西下端	+4.09m [-0.18m]	+2.09m [-0.18m]	+1.46m [-0.18m]	+1.62m [-0.18m]	
		東下端	+4.56m [-0.18m]	+2.46m [-0.18m]	+1.60m [-0.18m]	+1.94m [-0.18m]	
水位下降側※2	ケース0	一括破壊	※2 水位上昇側:傾斜角北75度, すべり角165度 水位下降側:傾斜角北75度, すべり角195度				-0.65m [+0.10m]
		西下端					-0.86m [+0.10m]
		東下端					-0.65m [+0.10m]
	ケース1	一括破壊					-1.54m [+0.09m]
		西下端					-1.43m [+0.09m]
		東下端					<b>-1.62m [+0.09m]</b>
	ケース2	一括破壊					-1.46m [+0.10m]
		西下端					-1.35m [+0.10m]
		東下端					-1.55m [+0.10m]

下線:各評価地点における地盤変動量を考慮した最も厳しいケース  
[ ]内の数値は伊方発電所における地盤変動量(+が隆起, -が沈降)



3.1 プレート境界付近に想定される地震に伴う津波

**3.2 海域活断層に想定される地震に伴う津波**

局地的な隆起・沈降を考慮した評価

**断層の不均質な破壊を考慮した評価**

4.1 火山の山体崩壊に伴う津波

4.2 地すべりに伴う津波

5. 重畳津波

最大水位上昇量・下降量 (評価地点及び波源別)

期望平均満干潮位を考慮

最高・最低水位 (評価地点及び波源別)

6. 基準津波

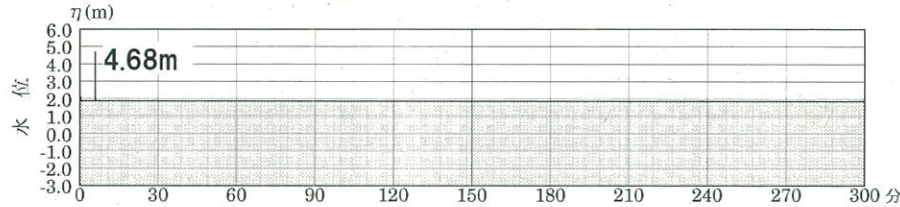


# 3.2 海域活断層に想定される地震に伴う津波(参考)

## ○断層の不均質な破壊を考慮した評価

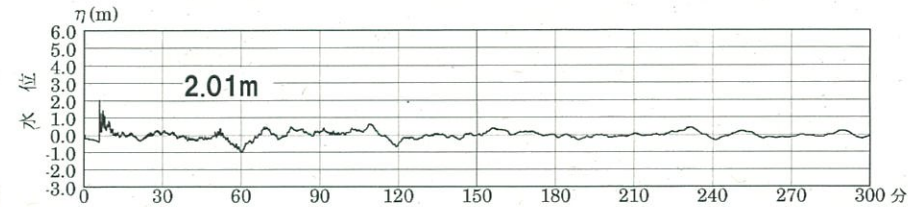
【3号炉敷地前面(水位上昇側)】

ケース1, 東下端(水位上昇側:傾斜角北75度, すべり角165度)



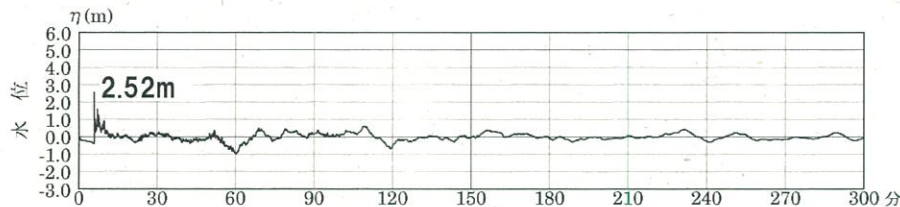
【3号炉放水口(水位上昇側)】

ケース1, 東下端(:傾斜角北75度, すべり角165度)



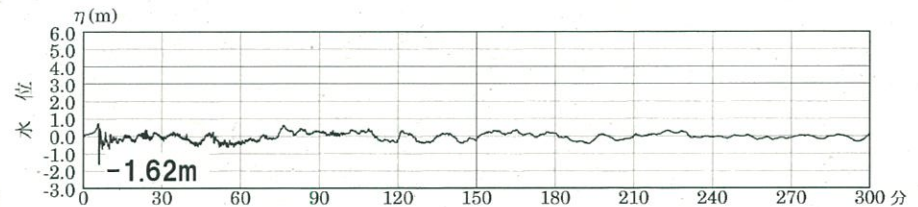
【3号炉海水取水口(水位上昇側)】

ケース1, 東下端(水位上昇側:傾斜角北75度, すべり角165度)



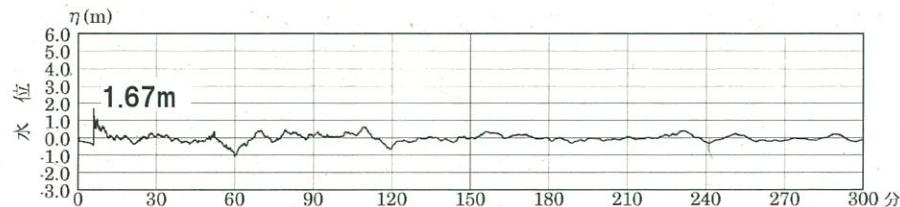
【3号炉海水取水口(水位下降側)】

ケース1, 東下端(水位下降側:傾斜角北75度, すべり角195度)



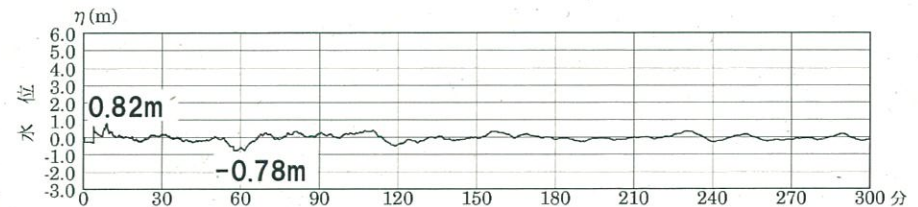
【3号炉T/B復水器取水先端(水位上昇側)】

ケース1, 東下端(水位上昇側:傾斜角北75度, すべり角165度)

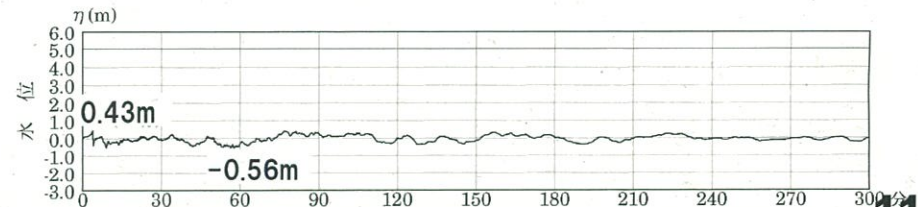


【基準津波定義地点】

ケース1, 東下端(水位上昇側:傾斜角北75度, すべり角165度)



ケース1, 東下端(水位下降側:傾斜角北75度, すべり角195度)



※ 基準津波定義地点は、3号炉敷地前面(水位上昇側)及び3号炉海水取水口(水位下降側)について最も激しい結果を与えるケースの時刻歴水位のみを記載